

学内におけるアートプロジェクトの運営方法

代表研究者：松下 千尋

共同研究者：伊能 怜・加藤 光嬉子・岸田 なつき・喜多 美緒・

近藤 穂波・谷口 遥香・西元 里佳子・丸山 拓真

〈目次〉

序章 アートプロジェクトにおけるキュレーターの人材不足

第1章 学内におけるアートプロジェクトの運営方法

- 1-1. 必要事項の決定、スケジュールの管理
- 1-2. 展覧会における予算管理
- 1-3. 招聘アーティストの対応
- 1-4. 会場設営と撤収

第2章 展覧会会期中について

- 2-1. 会期中の動き
- 2-2. 作品の管理

終章 今後の学内における展覧会について

作業項目	作業項目詳細	7月中旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月中旬	11月下旬	1月中旬	1月下旬	2月
チラシ作成 加藤・岸田・松下	デザイナーを決める																
	デザイナーとの交渉																
	チラシテキスト・原稿の作成																
	チラシイメージの作成																
	デザイナーへ全データ送信																
	チラシの校正																
	チラシの納品																
	森文化施設、個人へ発送																
	プレスリリース作成・発送																
	森ウェブサイトに掲載掲載を依頼																
公式ウェブサイトに掲載追加・SNS更新																	
近隣店舗への周知、挨拶回り																	
招聘アーティスト 伊能・喜多・谷口	候補者を決める																
	アーティストへの交渉																
	会場下見、顔合わせ																
	アーティストのプランをもらう																
	各種交渉																
	搬入・設営																
	ワークショップなどの運営																
	搬出																
個人制作	プランの発表																
	企画書の作成・提出																
	企画書再提出																
	各種交渉																
	搬入・設営																
	記録																
	搬出																
	ポートフォリオ作成 レポート作成																
イベント実施 岸田・西元	イベント企画・テキスト作成																
	イベントプログラムの作成																
サイン計画 喜多・松下・丸山	橋の旗・看板の案内作成																
	校内案内図・キャプションの作成																
	受付設置																
会計 近藤	収支予算書の作成・管理																
施工 伊能・丸山	展示台・仮設壁の制作																
記録 松下	会期中の展示・イベントの記録																
ドキュメントブック 加藤・近藤・松下	編集会議																
	アーティストへのインタビュー																
	記録集の作成																
ボランティア担当 近藤・西元・谷口	ボランティア募集																
	スケジュール管理																
	マニュアル管理																
学生グループ助成 松下	報告書作成																

図1



図2



図3

序章 アートプロジェクトにおけるキュレーターの人材不足

私は京都府木津川市で、アートを媒介とした地方創生の事業として行われている『木津川アートプロジェクト』に、運営スタッフとして2年間関わっていた。この経験を通し、地域活性化の為にアートプロジェクトを運営する人々、自己表現をする為の場としてアートプロジェクトを活用しているアーティスト、そしてその土地に住む人々の仲を取り持つキュレーターという職種の需要が今後非常に高まるのではないかと考察した。そして、様々なアートプロジェクト、展覧会に参加し研究を行ってきた。(2016年8月『あいちトリエンナーレ』/2016年9月『東アジア文化都市古都祝奈良』/2017年1月-5月『ブレーカープロジェクト』/2017年3月『アートの活用形?』/2017年4月『西尾美也展』など。)また、2017年5月25日に奈良市長である仲川市長と西尾ゼミでお話させていただく機会があった。なぜ、奈良市長が西尾ゼミに訪れることになったかということ、2016年奈良市で開催された現代アートイベント『東アジア文化都市』を通して、市長は芸術文化の力を改めて感じ、今年度の第一次予算案にそれを反映しておられたが、市議会と市サイドの意見が違うことから、修正となったという。人にもっと理解されるための行政側の姿勢や、市民の皆さんの受け入れる心などをつなぐ何かが大きくかけていたのではないかと思案したことがきっかけであった。このことからアートプロジェクトにおいて、その土地の人々や運営側、そしてアーティストをつなぐ、幅広い分野に関心を持ち、コミュニケーション能力のあるのキュレーターの人材が必要であるといった現状があると考えた。

また、今年の3月に参加した大阪市立大学主催の『アートの活用形?』では、アートを使って企業を活性化させたいと考えている経営者の方や、2017年の東アジア文化都市の開催地となってる京都の市役所職員の方などが参加していた。参加した方々が口を揃えて、アーティストとのやり取りが非常に難しく、また、その仲立ちも誰に頼めば良いのかわからないと発言していた。改めて企業や地域の事と芸術家の事と、双方の考え方を理解できるアートマネジメントが必要であると強く感じた為、アートプロジェクトの運営方法を学び、身に着けることを研究テーマとする。研究方法として、実際に学内で行われる現代アート展を企画、運営を行っていく。実際に展覧会の運営に携わる事で、運営側と作り手側の考えを相互理解する事を体験し、キュレーターの知識を身に着ける事が出来るのではないだろうか。また、現在奈良において地域に開かれた文化創造拠点が多く、この西尾研究室による創作展(仮)の開催がひとつの拠点になるのではないだろうか。

第1章 大学内におけるアートプロジェクトの運営方法

本章では、キュレーターの業務について、難波祐子の『現代美術キュレーター・ハンドブック』をもとに整理する。

1-1. 必要事項の決定、スケジュールの管理

まず、展覧会をつくるにあたり、必要な作業項目について、文献を参考にしながら洗い出した。まず、展覧会の主な流れを、①作家の決定、②会場構成、③広報物の準備、④作品集荷・輸送、⑤会場設営・展示、⑥関連イベントの開催、⑦撤収・作品返却、⑧カタログ制作とした。展覧会に出す作家は、ゼミのメンバー9名のほか、チェ・ジョンファさん、伊東宣明さん、阿見つばささんの3名を招聘アーティストとして迎える事が決定していた。

それを踏まえ、まず招聘作家の対応を行う作業が必要であった。そして、流れ通り、チラシの作成、会期中の関連イベントの実施の運営、会場構成、設営時の施工、ボランティアスタッフをまとめる作業、また展覧会後もドキュメントブックの作成や、会計、各書類の提出作業など大きく10つの作業項目を出した。ゼミのメンバー9名が兼任しながら11つの作業項目の担当を振り分け、スケジュールを管理した。また、その作業項目のほか、自分たちの制作も進めていった。どの作業項目がどの日程でどう進んでいくのかについて、共有するためにスケジュール管理の資料(図1)を作り、随時確認出来るようにした。展覧会の準備は、大学の夏期休業と被っていたが、このスケジュール管理表のおかげで誰がどこまで進んでいるのかがわかりやすくなった。

1-2. 展覧会における予算管理

展覧会は大変お金がかかる。フリーランスの自主企画の展覧会(個人のギャラリーなどにおける展覧会など)でも少なくとも数十万円から数百万円までかかってしまう。予算書の作成と管理はキュレーターの大事な仕事の一つである。(美術館などでは、経理担当者があるが、フリーランスで行う場合は経理担当者が別途立てられていない事が多く、管理もキュレーターが行う。)

実際にゼミにおいて学生で文献を参考にしながら支出として何にお金がかかるかを考えた。招聘アーティストの作品借用料・旅費・滞在費、作品製作費、会場設営費、カタログ制作費、謝金など。収入も同じように考えた。

1-3. 招聘アーティストの対応

キュレーション中の大切な作業の一つとして、招聘作アーティストへの対応がある。今回学生達は作り手にありながら、招聘作家の方の設営などのサポートをする必要があった。特に、韓国の作家であるチェ・ジョンファさんの作品は、「東アジア文化都市2017京都」というアートプロジェクトにおいての、京都府の二条城での作品を使用するという経緯があり、そこから大学まで、何人かの学生により、大学まで輸送した。(キュレーターは書類の作成などの地道な作業を淡々とこなすほか、体力が必要となる場面が多々ある。)

そのほか、阿児つばささんや伊東宣明さんの大学視察の際であったり、キュレーターは招聘アーティストが作品を制作する中で、表現を形に出来るようにアーティストと共に考えなければならない。今回、作業項目として招聘アーティスト担当のものがいたものの、この作業に関してはゼミのメンバー全員で取り組んだのであった。

1-4. 会場設営と撤収

展覧会会場の設営は事前の計画がとても重要となってくる作業でもあり、設営・展示スケジュールの作成はとても重要である。今回は招聘アーティストのチェ・ジョンファさんの作品の設営スケジュールが短く、ゼミのメンバーのほか、ボランティアスタッフを招集しなんとか完成させる事ができた。作品展示の作業は作品が生まれる瞬間に立ち会える楽しい作業である反面、精神的にも肉体的にも厳しい作業となる。

第2章 展覧会会期中について

2-1. 会期中の動き

こうして10月23日から1週間行われた展覧会であるが、会期中はシフト制で受付スタッフを行った。受付スタッフとしての仕事としては、鑑賞者が作品を観てまわりやすいよう、道順の案内をしたり(図2)、作品の説明をしたり(図3)する(招聘アーティストである阿児つばささんの作品は、決まった道順があった為案内が必須であった)。

また、問題があれば迅速に改善作業に努めた。たとえば、少し離れた会場と会場との間に誘導として立てた旗が分かりづらいという鑑賞者の意見は、すぐに全体へと共有され、旗の位置を迅速に適切な場所へと変えなければならない。会期中に頂く鑑賞者の意見は、次に来る鑑賞者のため、素早く共有し改善を実行しなければならない。

2-2. 作品の管理

作品が破損しないよう、定期的に作品の見張りをしなければならない。また屋外での作品は特に、天候などによって作品を維持する事が難しく、その管理をするのもキュレーターの仕事の一つである。展覧会の準備や、事務的な事以外にも、作品に直接関わる仕事が多い。

終章 今後の学内における展覧会について

今回の展覧会での実践を経て、学生たちは初めて展覧会のキュレーションを行い、模索しながらも展覧会を無事やり遂げた。実際に、展覧会をキュレーターとして運営していく事により、その仕事の流れをつかみ、身につける事ができた。

展覧会自体は台風の影響もあり、見込みよりも少ない来場者ではあったが、学内の学生達が普段何気なく過ごしていた学校を見つめ直すきっかけになっていた。また、外部の来場者にとっても、初めて本大学を知るきっかけになったり、現代アートに触れるきっかけになったりしていた。大学を、外部へと開かれた空間にするきっかけとして今回の展覧会は効果的だったのではないだろうか。

来年度開催される際には、現在3年生の学生達は2度目のキュレーターということで、昨年の失敗を踏まえ、よりよいものになるだろう。ギャラリーなどが少ない奈良県において、今後本大学が現代アートのプラットフォーム的な存在となってほしいと思う。

【参考文献】

難波祐子(2015)『現代美術キュレーター・ハンドブック』株式会社青弓社